

かぐらおが

(題字は前学長 山田守英氏)

第 31 号

昭和57年 3月15日

編集 旭川医科大学
 厚生補導委員会
 発行 旭川医科大学教務部学生課



(写真撮影 学生課 森田祐子)

旭川冬まつり

内 容

第4回卒業生を送る……………黒田 一秀…2	1年のあゆみ……………7
卒業生を送るにあたって……………鮫島 夏樹…3	研究室紹介……………坂下 茂夫…9
卒業するにあたって……………清水 重男…4	奨学金について……………9
卒業するにあたって……………西野 共子…4	サークル紹介……………10
卒業の春に……………宮田 達也…5	課外活動短信……………16
昭和56年度講演会一覧……………6	窓外……………天羽 一夫…16
スキー遠足……………6	

第4回卒業生を送る



学長 黒田 一 秀

生命は短く、術は永遠である。正しき機会は刻々に移り、試には惑ひ多く、判断は難い。凡そ医師は単に必要な学習だけで事足りるものではない。其の目的達成には、病人そのものとその環境と並びに外界とに考慮を拂ふの要がある。

——今裕編「ヒポクラテス全集」箴言1：1

昭和57年度第4回の卒業生諸君98名を送るにあたり衷心よりおめでとを述べたい。卒業証書を手にし、医学士の称号を得た心持はどんなものであろうか。家族の皆様もさぞお喜びのことであろう。家族の方々ばかりではない、社会が大きな期待をもって諸君を待ちうけていたのである。

思うに卒業生諸君は生れおちてから今日まで学習に学習を重ねてきた。それほど人の学ぶことは多いのである。際限がないとも云えよう。学ぶは真似ると同じ語源なそうであるが、先人からの蓄積した知識をカリキュラムに従って追体験することなのであろう。その結果が卒業証書であった。ことに医学校の履修は、専門科目に移ると選択はゆるされず全科目に合格しなければならなかった。まことに大へんなものである。新卒業生は学習したばかりの知識で一杯である。だが諸君のなかに医を業とするプロフェッショナルとしてその名に値すると言いきれる人はいないであろう。それは医は機械でなく人間を相手にしているからであると思う。誰も人間を機械のように製作することはできないし、人間は単なる自然ともことなっている。医科大学における履修内容はおもに自然科学とでも云うような観点から抽象され整理されたものであった。現実の人間の勉強はこれからなのである。医を職とするものは、この点も加えて、生涯学ばねばならぬ。卒業式はその始まりである。しかもこれからは研修期間以外にはカリキュラムも決っていないのが特徴なのである。自己の生存を通して、真似るばかりでなく創造してゆくのである。本当の専門職の喜びがそこにある。どうかその喜びを獲得する卒業生であるようにと祈っている。

自然科学の分科として医学の発展は日進月歩で目まぐるしい。筆者の卒業の頃からみれば隔世の感がある。この科学技術の面での発展が著明であるだけ、その適用をうける人間の方は疎外感を強く訴えることになる。医学はよく言われるように、人間に関わる学芸である。人間は自分一人でなく他人の存在を根源的に前提としていることを考えれば、どうして他人を無視することができよう。

医の職業はことさら厳しく激しい。忙しい日々の仕事

のなかでは、個々の対応に追われて、この問題に深く触れずになってしまうおそれもある。しかしこの反省がなければ今日の医学信仰・医師不信の不満をとり拂うことは難しいであろう。忘れずに実践深化させてほしい。

卒業すると同窓会員になる。諸君は医科大学卒業生であるが、旭川医科大学の卒業生であって、他大学の卒業生ではない。これは生涯ついて廻る印である。新生児の時は白紙で沢山の可能性を持っていたのが、今やいろいろ印をつけた存在となった。旭川医大卒という変えられない名もその一つである。これは決して諸君を束縛するものではない。かえってこの名を根據として大いに活躍していただきたい。母校の発展は一つには卒業生・同窓生の活動に依るものなのである。幸い先輩の1回、2回、3回生諸君はよい働をしつつある。先輩と共に同じく創成期の卒業生として、待ち受けていた社会に対する期待に応える諸君であることを信じている。

一緒に卒業した同期生は共通の思いを持った、掛け替えない朋友として、大いに互の力になることも今後益々経験されることと思う。期を同じくする友情を育ててほしい。これらのことは学閥を意味するのではない共通の経験を生かすことが力になるのである。諸君が母校をどんな風に見ているか、在学中はなにか不満を覚えたか分からないが、社会にでてみれば、組織として、これほど面倒をみてくれるところは恐らく他にないのではないかとひそかに思う。これからも母校が諸君にとってそうであれと願う。そして母校も諸君と共にまた育つのである。

医学研究、医療の実践いづれをとっても激しいしかも社会的責任の重い職である。十分に自らの健康に留意されて、世代の荷い手として存分の活躍をされることを祈り、全教職員と共に諸君の出発を祝福する。





卒業生を送るにあたって

鮫島夏樹

2年間、第4期生の学年担当として過ぎて来たが、この春でお役御免になることになり、ほっとした気持は否めない。学生諸君にとっては、高学年になる程、学年担当の教官などに対する関心は薄くなって行くと思われるが、担当の教官の方ではそれなりの気持の負担がある。正直の所、学年担当として私はただ事務的に学生諸君に接して来ただけの様で、私の方から積極的に学生諸君の面倒をみて来たという印象は殆どない。これは一面、幸いにしてそういう必要を余り感じなかったということであり、本当の苦勞は低学年の担当教官ほど強く味あわれるのだろうと想像される。いってみれば学生諸君は学年が進むにつれて医学教育に適応し、そだち、なれて行く様な仕組みになっているので、高学年の担当であった私が、も早や余りやきもきする必要がなかったのだと考えている。この点で今までの学年担当の先生方に感謝しなければならぬと思っている。

私は、決して学年担当として十分責任が果たせたとはいえない。それでも少しでも学生諸君に役に立って来たとしたら、それは凡て本学のとって来た医学教育のシステムのお陰であり、それに規って学生諸君に接して来たからであろう。旭川医大の様な単科の医科大学と旧来の総合大学の医学部における医学教育との比較は、単にカリキュラム上での差異ばかりでなく色々な点で論議のあることと思われるが、少なくとも私としては本学の教育方針の方により多く満足出来るような気がする。そして、その一つの成果が第一期生以来の本学の卒業生の実績にあらわれていると思う。今春、卒業する第4期生諸君にとって、旭川医大における青春の6年間は短かったにせよ、長かったにせよ、振り返ってみて各自の成長に気がつくだろう。学年担当として私は、過去3回の卒業生諸君に感じたと同程度の信頼感みたいのを懐くことは出来るが、今後さらに厳しいトレーニングに耐えて医師として実社会での活躍を期待したい。

医学教育は、質的にも量的にも著しく変化して私達の頃のそれと比較すべくもないが、今の医学生は一面、非常にめぐまれた教育環境に育っているといえる。よくいわれることであるが、この頃の学生は過保護で来たために、何から何まで準備してやらないと出来ないとか、自分で物事を割り上げる能力に欠けるといわれる。しかし、世の中というものは少なくとも物質的には常に進歩して行くものだから、過保護として映ずるのは、一般的に先輩の目からみた偏見であるかもしれない。たしかに、物

質的な豊かさは精神を弱らせるものであるから、いわば過保護の学生生活から卒業して、医師免許を取得して、世の中に出て色々異った環境下で臨床研修のきびしさに耐え、自分を磨いて行くことが出来るだろうかといった教育ママ的な考えがしないでもない。幸いこんなことは全く杞憂のようである。どだい学生諸君を含めて今の若い人の精神構造は私達とちがった面があるのかもしれない。そればかりではなからうが、いずれにしても道内・外の研修施設で卒後研修をうけている本学卒業生の評判はすこぶる良いようである。これはfresh manがもつ特権ともいうべきもの以上のものらしいので、教官としても嬉しいことと思っている。今後とも、他大学出身者の間に混っても立派に評価されるようであってほしいと念じている。新しく生れたものは何でも良い。純粹だからである。しかし、段々古くなる。大切なのは“初心忘るべからず”ということであろう。

アンケートによると、今春卒業する第4期生の諸君の大多数は本学をはじめ、大学の臨床教室での臨床研修を希望しているようである。最近、わが国でも各学会とも専門医制度を前提とした認定医制度をとる傾向が増し、必然的にこれらが卒後教育の一つの基準になりつつある。一方、医学細分化の傾向ははげしく、大学の各臨床教室はいわば専門医を養成する場で、かかる認定医制度が基準にする一般基礎的な臨床研修には必ずしも適していない面がある。このため、一般市中病院での実地訓練が必要となるが、本道とくに道北地区の医療状況をみる時、本学の後発のこともあり、こうした研修施設に乏しく今後ともこれらの整備が要望される。過日、知事と本学及び北大、札医大の学長、学部長らが集まり本道における今後の医療のあり方について話し合われたと聞くが、医師過剰時代が予想される今日、当然のことと思われる。本学は、道北各地域からの医師派遣の要請に対して十分応える実力をまだ備えていないが、卒業生が巣立つにつれて直接的、間接的にも本道の医療に貢献しつつあることは喜ばしい。

唯、卒業生の諸君に伝えたいのは、医師の世界はいわば閉鎖社会みたい面があるので、それに麻痺して社会通念から逸脱する様なことは決してしない様、心がけてほしいということである。

(第6学年学年担当、外科学第一講座教授)

卒業するに当たって



清水 重男

学生課から原稿の依頼があり、その時は心よく返事をしたのですが、今となっては非常に軽卒な行動であったと思っています。卒業を控えて何かを書いてくれ

と言われても、勉強もできる方ではなく、他に自慢できるようなものもなく、何を書こうか迷っています。ただ、唯一自慢できるものがあるとすれば、いろいろなことを通じて多くの先輩や友人ができたこと——良い面でも悪い面でも——これから何十年もつき合うであろう人達ができただけは本当によかったと思っています。

大学での思い出はいろいろありますが、2つ3つ振り返ってみましょう。

私は、京都に生まれ育って、中学生の頃から北海道にあこがれていました。もちろん、私の成績では医学部などというものは関西人特有の「しゃれ」にもならないものでした。それが、どういうわけか旭川医大に合格し、本人も狐につままれたような気分でした。旭川についての知識など無に等しく、話は少し前後しますが、1年の夏休みに帰省した際、「旭川とは恐ろしい所で、クマが街中を悠々と歩いている。」とか、「冬はみんな2階の窓から出入して、どこへ行くにもスキーで出かけるんだ。」とか真顔で話をすると、みんなも真剣に話を聞いていました。

入学した時の感想は、少しの不安と大きな期待感とそして何よりも、うるさい親がいなくてホッとしていたように思います。

新入生歓迎コンパにも参加しました。コンパとは何をやるものかわからず、興味半分で出席したところ、大阪出身のI先輩に会い、非常に関西人が新鮮な感じでした。2次会へ行くからと言われ、今日はタダで飲み食いできると内心ニコニコしながら調子よくついて行ったところ、1人1,000円ずつ払ったような気がします。当時は、最上級生が4年生で、先輩よりもついて行った新入生の方が多く、今から考えれば当然かも知れませんが、何か損をしたような気分でした。

3年の春休みに京都でのんびりしていると、大学から「親展」の印のついた封書が来ました。これは、留年通知に違いないと思い一瞬まっ青。親に何と切り出そうか、何と言いつくししようかと考えつつ封を切ると、学年担当のA先生からの呼び出しでした。安心すると同時に自分の勉強不足を反省したものでした。しかし、たまたま遊びに来ていたO君に「その手紙なら俺ももらった。他にもI君やA君も受けとっているから全員に送ったんだよ。」と言われました。旭川駅に降り立つと、別の友人に会い「おまえも呼び出しを受けて帰ってきたのか。」と言うと、

その友人いわく「へ、何のこと？」——やはり、呼び出しは成績の悪い人だけで、教授から1人で、30分間みっちり話をうかがいました。

臨床実習は一言で言って、楽な科が多いようですが、やはり勉強不足のせい、少しでも問いつめられると、返事がしどろもどろになり、早く自分の番が終わらないかなと思うことがたびたびありました。

今こうして、じっくり振り返って考えると、試験のためだけに勉強し、試験が終われば一度覚えたこともすぐに忘れ、本当の知識とはほど遠かったように思います。これから、医師になるうえで確固とした知識を身につけたいし、又、それがなければ医師として評価されないのではないかと思います。私たちには限りない未来があると言われますが、確実な知識、技術、意欲などを伴ってこそその将来であり、裏をかえせば、社会的な評価もあり、経済的な基盤もしっかりしている先輩の先生方とは異なり、一歩まちがえば、未来に向って墜落すると同時に墜落する可能性も秘めているような気がします。

夢はいつ、いかなる時でも失いたくありませんが、今の時点ではどこまでわかっているのか、今の自分に何ができるのか、何をなすべきか、というような現実的な問題をもじっくり見すえて、一つ一つのことを反すうしながらやってゆきたいと思います。このようなことは、実際には永久に到達できないことなのかも知れませんが、今の気持ちを大切に、それが無駄に見えようとも多くのことを吸収しつつ、のんびり、恥をかきつつやっていこうと思います。

(第6学年学生)

卒業するにあたって



西野 共子

51年の春、あまり期待していなかった私に思いがけない合格電話——それ以来、はや6年の歳月が流れ、むごいここに私は6つも歳をとり、そして、ようやく卒業を迎えようとしています。

ふり返ってみると、6年間といっても、ほんの短かい間だったようにも感じられますがその間通ってきた関門……レポートの嵐、試験地獄、再試験発表への恐怖などを思い起こしてみれば、やはり「ようやく卒業」と感慨も無量です。ここに至るまで、頭も良くなく、体力に自信もない私は、いろいろな人のお世話になってきました。講義ノートのコピーをとらせてくれた友人たち、要領の悪い私につきあってくれた実習グループの仲間たち、そして、試験中に体調を崩した私の心配をして下さった先

生方には、心から感謝しています。

とにかくも卒業できることになり、私にとって、この6年間というのはどういう意味を持っていたのかと考えてしまいます。

この6年、旭川医大に学んだことによって私はこれから医師としての人生を送ることになると思います。そういうことで、この6年間は私の人生にとってはたいへん意味のある期間だったと言えます。入学当時と較べればハードなカリキュラムのおかげで、少しは頭の中身の様子も変わったと思われるし、巧妙に仕組まれた実習のひとつひとつが終わるたびにどうやら生理的な感覚までもが医師向きのものにすり替えられてしまったような気がします。(先生方、被害妄想的な書き方で申しわけありません。)

しかしながら、充実したカリキュラムのおかげか、授業以外の生活、特に6年分の私の精神生活という意味を考えると、残念ながら空虚な印象を否めません。6つも歳をとってしまったという割には……。

その私を多少とも救ってくれるのが医療研での思い出です。医療研、正確には医療研究会——お役所などで資料を集めたり、話を聞きに行ったりする際に「旭川医大医療研究会」という名称が意外に効を奏することがありました。たぶん、旭川医大の部分に効力があるのでしょう。思いがけず協力的だったりお茶をごちそうになったりということがありました。

もともとは、世間で騒がれている医療問題への私なりの疑問や不安に対する解答を求めての入部でした。しかし、入部してから読んだ本や、日々の活動の中には明確な解答を得られないまま、「地域医療の実際を目で見る」というようなことを主体に、役所とか田舎とかを歩き回ることが多くなっていました。

おかげで北海道の田舎には詳しくなりました。農村や漁村に行くと、いろんな人と出会いました。その人たちの思い出す時、その土地の風景もいっしょに思い浮びます。折にふれ思い出されるこういうシーンをたくさん持っていることが、空虚な印象の漂う私の6年間に、わずかでも手応えを与えてくれるような気がします。

医療研では部長も経験しましたし、曲がりなりにも6年続ける間には、いろいろと苦しい時期もありました。悲しかったのは部員が減ってゆくことです。例年、志に燃える多くの新入生を迎えるのですが、多くの人は学年が進むと離れてしまいます。これには、いろいろ理由があると思います。自分自身でもふり返ってみると、学年が進むにつれて医療研の活動に対して、距離をおいた態度をとったのも事実です。このことについて、医療研の求める立場が、どちらかといえば「患者側からの理想の医療」であるのに対して、医学生の方は学年が上がるに従って医師側の立場へ近づいてゆくからということも考えられます。

ともあれ、我が後輩たちにはがんばって欲しいと思い

ます。医療研のみならず、他の文化系・体育系のクラブがこれからもより幅広い活動をされるよう願っています。

最後に女子学生の皆さんへ、少数派ゆえのデメリットや体力的な問題もあることはと思いますが、よい学生生活を送られますよう、心から応援しています。がんばって下さい。

(第6学年学生)

卒業の春に



宮田 達也

旭川へやって来て早くも6年間が過ぎ去った。それまでは北海道を訪れたことが一度もなかったので、入学試験の前夜、もう3月の終りだというのにシンシンと降りしきる

雪をながめながら、こんな所で6年間も暮らしてゆけるのだろうかと思心配したのを思い出す。以来6年、初めての北海道で何もかもが新鮮な毎日であった。

春——4月の雪融けとそれに続く草花の季節。桜の開花が5月というのにはほどほど驚かされたものだが、雪融けを待っていたかの如く、種々の花々が一勢に咲き乱れる北海道のこの季節は、私のように本州からやって来た者には大きな感動であった。旭川に来て初めて目にした植物も多く、“これ何？”とふきのとうを指さして友人に尋ね、ひどくバカにされたことを覚えている。クラブでは近文の市営コートでの春合宿の際、その日程と労力の大半を雪かきに費やし、ほとんどラケットを握る時間が無かったこともあった。

夏——2年の時大学祭の実行委員となった。“有名人を呼ぼう!!”という企画の責任者となり、一応学内でアンケートを取ったもののそれらの一切を無視し、全く私自身の個人的趣味から永六輔氏を招いて公演会を開催し大成功に終わった時は、まさに“してやったり”の気分であった。又、3年の時は厚化粧にカツラをかぶり仮装行列に参加して賞をいただいた。この時の化粧は一部で極めて評判よろしく、今なおアンコールを望む声が全国各地から寄せられるほどである。この学祭が終るころから7月にかけてこの北海道の自然、気候の素晴らしきは、これを味わうだけでも6年間北海道に住みついでみる価値のあるほどのものだと思う。

秋——大雪山の峰々が紅葉で真赤に燃えるこの時期にちょうど試験期間が重なってしまうのが残念でならない。10月も終り頃になると忍び寄る冬の気配がすでに濃厚で北海道の冬にまだ慣れていない頃は、来るべき冬の厳しさを思い何とも言えぬ不安感に陥った事もあった。

昭和56年度講演会一覧

昭和56年度本学で開催された講演会は次のとおりです。
(庶務課)

開催日	演 題	演 者	担当講座
4月28日 (火)	ハンセン氏病の 現状について	国立療養所松丘 保養園長 荒川 巖氏	泌尿器科学 講座
5月 6日 (水)	糖尿病に関する 最近の考え方	米国バンダー ビルト大学生理学 教室主任教授 チャールズ・R・ バーク氏	薬理学講座
6月29日 (月)	小児悪性腫瘍に 関する最近の知 見	米国・南カリフ オルニア大学教 授 ダニエル・M・ ヘイズ氏	外科学第一 講座
7月13日 (月)	妊娠中の薬物投 与：胎児への影 響とその長期観 察	米国・ペンシル ベニア大学教授 サムナー・I・ ヤッフェ氏	小児科学講 座
10月 8日 (木)	肺癌の診断と治 療	防衛医科大学校 医学教育部教授 尾形 利郎氏	外科学第二 講座
11月18日 (水)	ショックの基礎 と臨床	九州大学医学部 教授 吉武 潤一氏	麻酔学講座
12月11日 (金)	脳卒中の基礎と 臨床	東京都養育院附 属病院神経内科 科長 東儀 英夫氏	内科学第一 講座
2月 8日 (月)	バングラデシュ の医療について	日本キリスト教 海外医療協力会 理事 宮崎 亮氏	
3月 8日 (月)	細胞工学的手法 の免疫学への応 用	佐賀医科大学免 疫学講座教授 渡辺 武氏	病理学第二 講座

ス キ ー 遠 足

第1学年学生を対象としたスキー遠足が2月3日(水)十勝岳スキー場に於て、第1学年学生 111名、第1学年学年担当1名、グループ担任3名、指導員6名が参加して実施された。

今年は、昨年の好天に比べ低温と吹雪という悪天候の中で、参加者は白い息を吐きながら自然の厳しさに耐え、一生懸命滑っていた。

(学生課)

そして冬一雪に閉ざされる半年間の生活も全く初体験。それでも1年の頃は、せめてスキーでもとセッセとスキー場に足を運んだ。以来学年が進むにつれ試験等で忙しくなり、スキーの機会もめっきり減り、スキーの技術は1年の頃の方が明らかに上である。

このように振り返って感じることは、これから先、何年何十年かが過ぎてこの旭川での6年間を想うとき、まず思い出されるのは北海道の雄大な自然の事であるような気がしてならない。本州からやって来た私にはそれほど大きな感動であった。

話題を専門の話にもどそう。2年の後半から始まった解剖実習。これはやはりこの6年間の出来事の中のひとつのハイライトであったと思う。先生に誘導され、緊張した面持ちで実習室に初めて足を踏み入れ、そこに並ぶ真っ白いシートに包まれた御遺体を目にしたときのことは、今でもはっきりと思い出される。我に似合わず、思わず厳粛な気持ちになったものだ。当時の解剖学のN教授の“自分の母親を解剖する気持ちで御遺体に接しなさい”という言葉の重みは、圧倒的な迫力をもって私の中に入りこんで来たのを覚えている。その時から医学の勉強が始まったような気がする。4年、5年、6年と年次が進むにつれて必然的に勉強に多くの時間をとられるようになった。試験が近づく度に、自分がこなさなければならぬ量の膨大さにただ目を見張るばかりであった。確かに後半の2、3年の勉強には苦しい事も多々あったが、それでもなんとか卒業にまでこぎつけられたのは、私自身が医師になるという目標に十分納得できていたからだと思う。学生は学生なりに漠然とではあるが自分の将来にある程度の夢とか理想とかをもっていると思う。だからこそ、一見無味乾燥とも見える暗記という単純作業のくり返しの苦しみにも耐えてこれたのだと思う。

これから5年先、10年先の自分の姿は、恐らく全く想像もつかないことなのであろうが、今自分のやっている仕事が本当に納得のできるものであるなら、自分の進んでいるレールは決して誤った方向に向かったりはしない……期待と不安の入り混った卒業を迎えて、私はそう考えたいと思う。6年間をふり返って、満足すべき事もやり残した事も沢山あるような気がする。私は根っから冒険をすることが苦手なタイプなので、後輩の諸君には学生時代は大胆に、かつ細心に大いに冒険をして載きたいと思う。失敗しても甘えがきくのは学生時代だけなのだから……。

私は卒業後旭川を離れる予定でいるが、最後に、旭川でめぐり会った人達、色々とお世話になった先生方、そして何よりも経済的にも精神的にも私の我儘を許してくれた両親に、深く感謝したいと思う。

(第6学年学生)



昭和56年

4 月

- 1日 附属実験実習機器センターが設置され、センター長に森茂美(生理学第二講座教授)が発令された。
- 10日 昭和56年度入学式(於 体育館)
〔新入生120名(内女子学生10名)〕
- 18日 新入生合同グループ研修(於 旭川東急イン)



30日 山田守英学長退官

7 月

- 1日 学長に黒田一秀(医療担当副学長)・教育研究及び厚生補導担当副学長に小野寺杜吉(内科学第一講座教授)・医療担当副学長に吉岡一(小児科学講座教授)が発令された。
- 4日 山田守英学長退官記念講演会(於 臨床第1講義室、主催 山田守英学長退官記念事業実行委員会)
演題 「退任に際して—大学を考える」

演者 前旭川医科大学長 山田守英氏



5 月

- 16日 第71回医師国家試験合格者発表
(本学合格者90名 合格率96.77%)

6 月

- 18日 第7回医大祭
- 21日 テーマ「調いつげ この熱きものを しめせ 俺達の力を」
(大学祭実行委員会委員長 八柳英次)



17日 第28回北海道地区大学体育大会
 20日 (当番校 北海道教育大学釧路分校)
 〈本学参加種目〉陸上競技(男)、軟式庭球(男)、
 バスケットボール(男)、バレーボール(男)、サ
 ッカー、卓球(男)、バドミントン(男)、剣道(男)
 弓道(男女)
 〈本学参加学生数〉 134 名
 〈成績〉男子29大学中13位 女子26大学中23位

24日 第24回東日本医科学生総合体育大会夏季大会
 8月5日 (主管校 東京医科歯科大学医学部)
 〈本学参加種目〉陸上競技、準硬式野球、硬式庭
 球(男女)、卓球(男女)、バレーボール、バドミ
 ントン(男女)、サッカー、バスケットボール(男
 女)、柔道、剣道、弓道、空手道
 〈本学参加学生数〉 268 名
 〈成績〉35大学中13位

9 月

9日 体育大会



16日 昭和56年度解剖体慰霊式(於 体育館)



10 月

7日 第72回医師国家試験合格者発表
 (本学合格者3名 合格率100%)
 14日 バスケットボール講習会(主催 厚生補導委員会)
 25日 第24回東日本医科学生総合体育大会冬季大会
 (主管校 杏林大学医学部)
 S57
 3月28日 〈本学参加種目〉ラグビー、スキー

〈本学参加学生数〉 60 名

12 月

21日 スキー教室(於 北大雪スキー場、参加学生32名、
 主催 厚生補導委員会)

昭和57年

1 月

16日 昭和57年度大学入学者選抜共通第1次学力試験
 17日 (本学会場 志願者 681 名)

2 月

3日 第1学年スキー遠足(於 十勝岳スキー場)



3 月

4日 昭和57年度旭川医科大学入学試験
 5日 (志願者 313 名)
 12日 昭和57年度旭川医科大学大学院入学試験
 (志願者 15 名)
 13日 昭和57年度旭川医科大学入学試験合格者発表
 (120 名)
 19日 昭和57年度旭川医科大学大学院入学試験合格者発
 表(15 名)
 25日 第4回卒業証書授与式(於 体育館)
 (卒業生98名)

(庶務課・学生課)



研究室紹介

■ 泌尿器科学講座 ■ 坂下 茂 夫

現在の教職員は、黒田学長を筆頭に16名でありそのプロフィールを中心に当教室を紹介する。

黒田学長は、学内で最も多忙な方であるが、その激務の間を縫ってカンファレンス・総回診・診療をほとんど欠席する事はなく、現在も教職員や学生の教育指導・診療を指揮している。さらに、来年は日本泌尿器科学会東部連合総会会長となり泌尿器科学界の重鎮としての任も控えている。その強靱な体力・精神力には驚くばかりである。

高村助教授は、現在カリフォルニア大学サンフランシスコ校に留学中である。学生・教職員の指導は厳しく、それが人気の秘密であるが、野球でもつい医局員を怒鳴りつける癖がある。本年6月帰国予定で、また元気な姿がみられる。

稲田・坂下両講師は、助教授不在の間の診療・研究の中心であるが、野球の方でも3番4番打者でありそれがチームの強化を妨げているとの声もある。稲田講師は、スキーの名手で今年も教室員のユニホームを統一し作り、公私にわたり若い教職員を鍛えている。

有馬・中田両助手は、尿路結石・神経因性膀胱の研究と共に新入教職員の指導を熱心に行っている。30才過ぎても看護婦さんにモテると妄想している二人でもある。出村助手は、新婚ながら再来担当・研究に大忙しで、研究の目度がつくまで子供をつくらないと格好つけたがすぐに失敗し、意志が弱いと冷やかされている。

岡村・藤沢両助手は、野球ではバッテリーとして活躍したが、今春から深川市立・富良野協会で一年間研修予定。外で遅刻癖と何事にもover actする癖が治るかが注目の的。橋本・宮田両院生は、卒後3年目を実験を中心に研究する。どちらも心優しく温厚な2人だが、近頃は眼光に鋭さが加わり、研究者の風格が出て来たのは頼もしい。

近藤・佐々木・藤井・大橋・若林の諸先生は、それぞれユニークな5人組でこの一年間よく勉強し、宴会ではいつも大活躍であった。2年目を迎え佐々木・大橋両先生は、それぞれ伊達日赤・美唄労災で研修し、残り3先生は大学で勉強を続ける。この他に教室には、事務の田淵・実験補助の加藤・日下部の3嬢がおりいずれも劣らぬ美女ぞろいで、訪れる学生をにこやかに迎えコーヒー・お茶のサービスをしてくれる。

教室の研究は、世界の最先端を競っている尿路性器悪性腫瘍の生化学研究を初め、尿路結石形成因子、ホルモン受容体、神経因性膀胱の研究を主要テーマとして行っている。今年の日泌尿総会でも尿管基底膜(坂下)膀胱腫瘍の浸潤様式(橋本)前立腺癌のアンドロゲン受容体(出村)髄膜瘤の膀胱神経異常(中田)の研究が口演決定しており、大世帯の旧設大学の研究を質量共にま

さっている。また、今秋の米国での国際泌尿器学会でも、黒田学長以下4名が出席発表する予定であり、着実に研究成果を公表している。

(泌尿器科 講師)

奨学金について

日本育英会、各地方自治体、民間奨学事業団体では、優秀な学生で経済的理由のため修学困難な者に、奨学金を給貸与しております。募集は通常年度始めに行われますが、大学を通して募集するものとそうでないものがありますので、注意して下さい。

なお、昭和56年度における本学の奨学生数は、下表のとおりです。

(学生課)

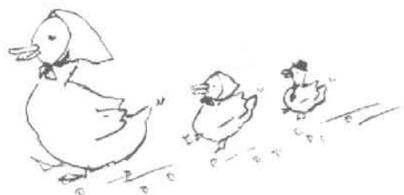
昭和56年度奨学生数

学 部		月 額	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
日本育英会	一般貸与	6,000～18,000	6	13	21	13	15	24	92
	特別貸与 自宅	13,000～20,000	6	11	6	4	3	0	30
	特別貸与 自宅外	18,000～26,000	14	7	15	17	11	19	83
計			26	31	42	34	29	43	205
旭川市	10,000				1				1
旭川ロータリー育英財団	6,000							1	1
網走市	8,000							1	1
江差町	13,000			1					1
遠軽町	18,000				1				1
大阪府育英会	5,000							1	1
神奈川県民医連	35,000						1		1
上磯育英会	10,000						1		1
交通通児育英会	20,000							1	1
土別町	10,000					1			1
杉村先生記念財団	14,000							1	1
佐性命社会福祉事業団(医学奨学金)	20,000							2	2
鷹栖町	30,000			1					1
鉄道弘済会	16,000				1				1
長野県(医学修学資金)	50,000							1	1
南条育英会	10,000							1	1
新潟県(公衆衛生修学資金)	50,000		1						1
日本通運育英会	10,000						1		1
根室市(一般)	15,000			1					1
。(特別)	(年額80,000)			1					1
根室市(医学修学資金)	50,000			1					1
函館市	8,000				1		1		2
芳賀町	7,000				1				1
深川市	15,000							1	1
福井県(医学修学資金)	50,000							2	2
福島県	15,000			1					1
美深町	12,000			1					1
北海道(医学修学資金)	50,000			1	3	2	4	5	15
北海道医師会	30,000			1					1
北海道母子福祉連合会	18,000			1					1
鶴岡市(医師職員養成修学資金)	50,000				1				1
明治製菓育英基金	15,000							1	1
吉田育英会	24,000			1	1				2
計			2	10	10	3	8	18	51

大 学 院

名 称	月 額	1年	2年	3年	計
日本育英会	70,000	12	17	7	36

サークル紹介



課外活動は、学生諸君の人間形成を目的として行われる正課外の教育活動であり、大学教育の中で正課教育と並んで重要な位置を占めています。

各人の適性や趣味に応じた活動を通して、自主的・創造的能力を養い、また大学社会の一員としての自覚・認識を深める課外活動は、将来社会人として共同生活をする時の基礎となることでしょう。

本学では体育系・文化系合わせて59のサークルが自主的な活動を行っていますが、次のサークルから「サークル紹介」が寄稿されましたので、御紹介します。(学生課)

ラグビー部

ラグビーは、ボールを投げても蹴っても持ち運んでもよく、さらに、走る跳ぶ当る押すとあらゆるスポーツの要素を持っています。ラグビーの花は、肉弾相搏つタックルです。目前にあるのは、栄光あるトライか強烈なタックルか、そこには闘う男達のロマンがあります。自分が倒されてもチームメイトが必ずボールを運んでくれるという信頼があります。華麗なステップで敵をかわすもよし、強靱な肉体を敵を蹴散らすもよし。緻密な組織プレーあり、豪快な肉弾戦あり、ラグビーこそは人類最後のスポーツです。男の誇りを持つ若人よ、ラグビーをやろう!!

(文責 倉林 均)

部員数	経 費	活 動
30	会費 月額 1,000円 遠征費自己負担	6月旭川ラグビー協会会長杯争奪戦 7月全道ラグビー選手権大会 7・10月定期戦 11月東医体 旭川ラグビー協会加入



卓 球 部

卓球部は、旭川医大で最も伝統のあるクラブのひとつであり、最も強いクラブのひとつでもあります。対外的にも数々の試合で個人・団体ともにたくさんの賞状を得ていますし、練習内容も充実していて、外をランニングしているときなど、その気迫で、ひと目で卓球部とわかるほどです。女子部員が活躍できるということも良いところのひとつで、初心者でもしっかり指導しています。卓球だけでなく、春の新款コンパ、花見、学祭、その他ことあるたびによく飲みます。クラブの雰囲気も楽しくナウイ兄さんと、やさしいお姉さんが君を、貴女を待っています。試合で活躍したい人も、練習で体をきたえたい人も、コンパで活躍したい人も、きっと満足できるでしょう。ときにはきびしく、ときには楽しく、試験前には情報も豊富に、いろいろな面で先輩たちがアドバイスをしてくれます。人生の1ページである大学生生活、きっと有意義に過ごせることでしょう。君の貴女の青春を、卓球部に賭けてみてはいかがですか。(責任者 田代 隆)

部員数	経 費	活 動
30	会費 必要なく 2,000円徴収 遠征費自己負担	5/10 道医体男子1位 7/27-7/31 東医体男子4位 10/31,11/1 北医体男女共3位 旭川卓球協会、全道学生卓球連盟加入

陸 上 競 技 部

陸上部は、クラブとしては小さい方ですが、活動はとても盛んです。陸上競技は、単純な競技で、一見するとおもしろみがなさそうですが、走る跳ぶ投げという運動を繰り返すことによって得る喜びは、やったことのある者にしかわからないし、だれでも簡単に得ることのできる喜びです。練習は自主性にまかされていて、強くなりたい者は、自分でどんどん練習しなくてはなりません。そんなつらさもあるが、不思議な連帯感で結ばれている僕らの仲間になりませんか。

(責任者 小黒恵司)

部員数	経 費	活 動
7	会費 月額 1,000円 遠征費、協会加入費自己負担	7/19 地区体4位 7/28-7/29 東医体フィールド優勝 総合2位 8/2 全日本医歯薬獣医 総合優勝 9/5-9/6 北海道選手権出場 全国学生陸上競技協会加入



スキー部

年中活動するクラブ—それが競技スキー部である。夏場は基礎体力をつけ、冬になるとスキーをかついで滑りにいく。スキーと自然に魅せられた集団である。

スキー部にはアルペンとディスタンスがある。アルペンは御存知のように華麗にポールにのどむわけて、ディスタンスは、野山を駆けめぐる地味なスポーツである。

ゲレンデスキーがうまくなりたい人、北海道の冬の雪原を走ってみたい人、スキーを滑ったことがない人、競技スキーに賭ける人…スキー部員には、いろいろな人がいます。最北端の医学部に入学したのだからスキーをしよう!!

(責任者 伴 俊明)

部員数	経 費	活 動
40	会費 月額 1,000円 遠征費自己負担	S56 3月東医体 総合男子2位、女子4位 6月親見峠駅伝2位 10月道北地区大学スキー部対抗サッカー大会3位 北海道スキー連盟、全日本スキー連盟加入



ゴルフ部

ゴルフ部 —それは旭医で最も過酷な練習に耐え兼ねるクラブだろう。素質で勝負の5&6年生、努力の4年生、ただひたすら楽しもうとする3年生、余りにも真面目な2年生と、筆舌には尽くし難い。しかし、大会での成績のみを見れば、誰もが疑うべく栄光の歴史を秘かに刻んでいるのだ。ハンディ・シングルの強者も少なくない。練習は毎週水土曜、緑が眩しい大雪山CCでタダで行なわれている。顧問の斎藤先生を筆頭に、続々とゴルフキチが顔を揃える我旭医ゴルフ部が、全道を完全制覇する時も近い。女の子大歓迎!! 優遇! 大好き! 送迎車有!

(文責 猪股 伸一)



部員数	経 費	活 動
24	遠征費自己負担	6/17 学連第2回男子定例会 優勝 9/30 全道大学対抗戦 6/22 弘前大・岩手医大・旭川医大 7/23 3校対抗戦 優勝 北海道学生ゴルフ連盟加入

硬式庭球部

TVにはテニストーナメント、街には新しいコートにテニスギヤルがあふれるこのごろ、テニスをしてみようという人も多いと思います。しかし、それは所詮、ミーハーテニスです。我が庭球部は、血は流さぬものの汗を流し、よだれは流さぬものの涙を流す本格派庭球部であります。マッケンローのような口調の中で行なわれる練習は、まさしく真のスポーツであり、あなたの心をきつとりこにすることでしょう。コンパ・冬のスキー連足といった楽しい年中行事もたくさん企画され、普段の厳しい練習の息抜きとなっています。是非、硬庭部へ!!

(責任者 田中利和)

部員数	経 費	活 動
40	会費 月額 1,000円 遠征費自己負担	5月-6月 北海道学生王座リーグ 男子2部2位、女子2部4位 7/5 狩勝杯争奪帯広畜産大学対抗戦 男女 優勝 7/24-7/29 東医体男子ベスト16、女子ベスト32 北海道学生庭球連盟他加入

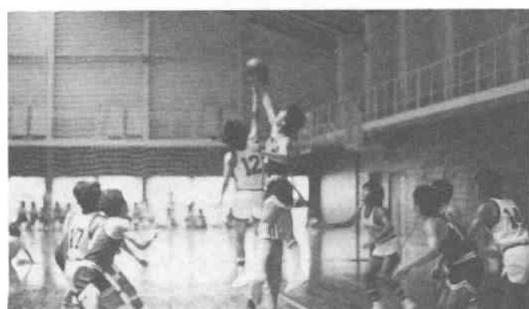


バスケットボール部

昨年は、バスケット部にとって充実した一年でした。女子バスケット部の発足や北医体の地元開催、東医体でのメダル獲得等の本業の他に、校内スポーツ大会でのバレーボール優勝、他大学女子部との合コン、富良野へのスキーツアー等々の副業の方も多忙でした。これらの行事をこなしてきた原動力は、海よりも深い下心を持つやさしい上級生と、羊の様な不純な動機で入部した下級生、美人が大洋の投手陣の様に充実している女子部員との抜群のチームワークによるものです。新しい大勢の羊が、このチームに加わってくれることを期待します。

(責任者 鏡谷 武雄)

部員数	経 費	活 動
28	会費 月額 500円 遠征費自己負担	6/19-6/20 北医体 8位 7/17-7/19 地区体 3位 7/28-8/1 東医体(男)3位 (女)1回戦敗退 旭川バスケットボール協会加入



空 手 道 部

世間の人に言わせれば、たかが医学部の空手部というかもしれません。実際に、医学部においては練習時間も他団体よりも制約されます。しかし、わが空手部の過去の戦歴は他に比して決して見劣りするものではありません。個人戦においては、旭川大会、全道大会で部創設以来常に上位に数名入賞しています。今後の課題とされていた団体戦も昨年のご覧のとおりです。短い時間で、より濃厚な練習、わかるまでくり返す個人指導がわが部のモットーです。空手といっても大げさなものではありません。ぜひ昼休みに武道場へ、初心者大歓迎!!

(責任者 笠茂 公弘)

部員数	経 費	活 動
18	会費 月額 700 遠征費自己負担	旭川地区空手道選手権大会(個人) 優勝・2位 7/26 東医体男子4位 11/1 北海道学生空手道選手権新人戦 (団体)4位 全日本・北海道・旭川地区空手道連盟加入



山 岳 部

講義室の窓から大雪・十勝の神々しい峰々が見える時、僕らの心はそわそわ、わくわく。山岳部はグラウンドやゲレンデでは満足できない仲間の集まりです。冬は山スキーで、ゲレンデでは味わえないスキーの醍醐味を満喫。夏は沢を巡り、溪流魚と沢のせせらぎを肴にキャンプファイヤー。こんな素敵なクラブなのに、なぜか部員が少ないのが悩みの種。しかし、北海道の山々と大自然を愛する君達がいるかぎり、我が山岳部は不滅です。

さあ、山岳部に入って、大学生活をエンジョイしよう。

(責任者 郡司 勇治)

部員数	経 費	活 動
11	会費 半期 1,200円 旅費・食費自己負担	5月 春山合宿(オプタシク西尾根) 6月 学祭山行(北日高) 7月 夏山合宿(南日高) 12月 冬山合宿(南十勝-原始ヶ原)



弓 道 部

我弓道部は、昨年最も躍進したクラブの一つだったと思います。念願の道場ができて約一年、毎日練習に励んだのでしたが、成績はもう一つでした。技術的には他にひけをとらないのに勝てないのは、ここ一番の精神力の弱さにありました。しかし、現主将になって一年、彼の人柄か、恥を知らぬ人間が増えはじめ、精神力の強化は着々と進んでいます。今年の目標は、東医体3位入賞、争覇戦3部昇格をめざし、りっぱな道場で頑張ってます。なお、今年からOBの美人の奥様方による手料理が食べられるという特典も加わり、部員一同皆様のお越しを待ってます。

(文責 小村 好弘)

部員数	経 費	活 動
28	会費 月額 1,000円 遠征費自己負担	6/7 全道学生弓道選手権 7/19 地区体、7/31-8/3 東医体9位 10/31-11/1 全道学生弓道争覇戦4部2位 旭川弓道会、全道・国学生弓道連盟加入



軟 式 庭 球 部

んちゃ、軟式庭球部“アップルズ”です。昨年、“部”に昇格しました。そこで、めちゃんこブリッコの部員一同、なまらあつくなって練習しています。知力だけに偏らないようにするため軟庭同好会を設立し体力を鍛えた一期生の流れをくむ、アマチュアリズムの粋、華麗な

ナルシズムが部の活動方針です。その延長線上に冠大会があり、プロフェッショナルがあるのです。だから、大会でめちゃんこみじめだとしても、大会は参加することが意義だっちゃ。順位ばかりを気にするミーハーでないっちゃ。

でも、今年は“軟弱軟庭”のひょうきんなお名前を返すよう、グレートにがんばりますので、そこそこよろしく。

(責任者 森 千里)

部員数	経 費	活 動
14	会費 必要なつとど2,000円徴収 遠征費自己負担	旭川四大学対抗試合4位 旭川地区北海道選手権大会参加 地区体2回戦進出



スイミングクラブ

泳ぎたい！ 大学にプールがない！ と嘆きつつ出来上がった不平集団がスイミングクラブだそうだが、実際は「美容と健康」これを目指す人が圧倒的。だから、水泳部ではなくスイミングクラブ。しかし、最近では東医体にも出場し、なかなか水泳部らしくなってきたとも言われ、今後の飛躍が期待されている(?)。

当クラブは、また、道外出身者の一大社交場となっている。最近少なくなった道外出身者の新入生諸君、ぼくらは君達を待っている。

(責任者 川田 和昭)



部員数	経 費	活 動
21	会費 年額 2,500円 遠征費自己負担	北医体 背泳100m、200m 亀田 隆 優勝 8/1~8/2 東医体 背泳100、200m 亀田 隆 5位入賞

ボーリング愛好会

我ボーリング同好会は、ボーリング場において、ボーリングをすることを目的としております。ただし、アベレージの高低は問題にいたしません。なぜなら、同好会員皆が、ハイアベレージ保持者だからです。門戸は万人に対して開かれているのです。ボーリングを通して人生のなんたるかを知り、明日への糧とする。ハイスコアを出す秘けつ、御教示下さい。ロースコアを出す秘けつ、教えます。いつ、どこでやるかは、さっぱりわかりません。

(責任者 渡辺 泰男)

部員数	経 費	活 動
16	必要なつと徴収	

極真空手同好会

我々の空手は、御存じの通り牛殺しの大山倍達、熊殺しのウィリー・ウィリアムスで有名な極真会館である。映画「世界最強の空手」など宣伝面でも華やかであるが、内容も確固たるものである。そして、組織的には池袋の本部を中心として全世界に及んでいる。極真空手の組手はもちろんフルコンタクトである。しかし、恐れるには値しない。小・中学生でさえそれを全うしているのである。さらに、勝利をつかんだ時の快感、相手に対してわき上がる友情などは何ともいえぬE気持ちなのである。

責任者坂本は、旭川支部の指導員も行っており、指導に関しては信頼できると思う。彼は昨年、全道空手道学生選手権大会(極真会主催)の個人戦に東海大学の選手として出場したが、1回戦から優勝者と当たってしまい、判定で惜しくも負けてしまった。その屈辱を晴らすため、君達新入生とともに一丸となって優勝旗を旭医大の手にと思っている。練習は、旭川支部と合同で行っているが、入会希望者は、責任者が毎日昼休みに体育館二階のボディビル部にて練習を行っているので、訪ねて来て下さい。北の武人たらんと欲す若者よ来たれ！ 押忍

(責任者 坂本 洋一)

部員数	経 費	活 動
9	会費 月額 1,000円	

写真部

先日、例会及び新年会が開かれた。一次会は喫茶店で皆が持ち寄った写真について意見を交わした。その中には、ビニール本顔負けのモード撮影会の写真あり、筆者のアメリカ大陸横断のときの写真ありで、いつものように写真を通して楽しいひとときであった。

二次会・三次会・四次会を終わって家に着くと時計の針は3時をまわり、翌日、起きてみると日曜は終わっていたのであった。

さて、我が写真部員は、食堂近くの暗室にたむろする愉快な仲間達である。大学に入り初めてカメラを手にした者もかなりいる。去年入部したO君もその例にもれないが、今では写真の腕は別にしても、女の子に近づくテクニックたるや我が部随一である。写真を撮る者にとって心に残る写真を撮ってみたいと思わない者はいないであろう。被写体が女の子であれば、その子に気づかれないように遠くから撮った写真は無味乾燥な物である。近づいて声をかけ笑っているその子を撮ってみよう。どれだけ素晴らしい写真ができることか。この真髓や我々医療に携わるであろう者に必要な事だと思う。初対面の患者さんと顔を会わせて赤面しているようでは笑い草である。写真には様々な被写体がある。雄大な自然、限りなく魅力的な人間、写真を通じてその中に溶け込んでみよう。きっとその中に君の学ぶ何かを見つけた事ができるのではないかな。

(責任者 朝倉 利久)

部員数	経費	活動
18	会費 月額 500円	6/18~6/20 学祭「写真展」開催 7/15~7/17 夏休み撮影旅行 11/23~11/28 秋の展示会 月1回例会

医療研究会

今年度のフィールドワークも、沼の上住民の方々のご理解を得ることが出来、成功することができました。

医療研の活動は、理論よりも体験を重きにする性質上、様々な立場の人と話を交わす機会が多くあります。町で唯一人の医師、目が殆ど見えないのに病院へ行った事のない事を自慢する老人、もう耕す人のいない畑を持つ老夫婦、医療研の魅力は、この人達との対話にあるのだと思うのです。フィールドに1度でも参加なさった方なら、おわかりの事と思います。

したがって、医ゼミなどに於いても、医療研の体験事実に基づく研究成果は、大局的な理論に於いて鋭い中央の医学生にも、自信をもって発表することができるのです。

(責任者 小市 健一)

部員数	経費	活動
45	会費 月額 300円 フィールドワーク 費用自己負担	全国医学生ゼミナール参加



文学部

若さの渾沌は未知数の可能性だ
若さの熱情は無尽蔵の埋蔵量だ

このたちこめる暗雲の中
現実の裸体を見つめ
その深淵に脈うつ律動をとらえ
表現行為を媒介に
内なる「私」を見つめ
他人のこころを見つめ
新たな現実を創造する

そこに進む
可能性の文学 (棧敷二号の巻頭詩より)

この詩は、「棧敷(さじき)」の創設期の状況を的確に示しているといえます。「棧敷」が誕生してはや十年近くの歳月がたち、文芸誌「棧敷」も十一号までの発行数を数えるに至りました。しかしながら、「棧敷」が模索し探究するものは常に「未知数の可能性」であり、「可能性の創造」であると考えています。

(責任者 服部 健司)

部員数	経費	活動
23	一切なし	今年度計11回定例読書会開催 (北杜夫、モーパッサン、辻邦生、 石川淳、夏目漱石、リルケ等) 旭川市文化団体協議会加入

映画研究会

私たちの活動は、年2回の上映会、学祭上映会を中心として、月1回の映画合評会の他、8mmを使っての自主映画製作をしています。上映会は、古く埋もれた名画、マイナーだけど良い作品をとりあげ、市民と一緒に楽しんでいます。自主製作は、いろいろ難しい問題がありますが、楽しみもあります。クラブは、ユニークな人物が多く、話も映画の話よりは雑談が多く、私などもその方面でクラブに存在しているのではないかと自問をしています。新入生の皆さん、映画の嫌いな人はいないと思います。軽い気持ちでクラブのドアをノックしてみませんか。

(責任者 三木 英保)

部員数	経 費	活 動
16	会費 月額 300円 その他必要時に 徴収	4/25 「ひまわり」「汚れなき悪戯」上映 6月 学祭上映会 10/7 「ペーパームーン」「第3の男」上映 月1回 映画合評会



将 棋 部

登休みになると第6セミナー室(部室)に、どこからともなく部員が現れ、将棋がはじまる。よからぬ事(ハメ手)を考えて沈黙考する者、自分の将棋そっちのけで隣の将棋に口を出す者、自分の見落しをたなに上げて「ウッソー!!そんな手あったの。それはズルイワ。」と叫ぶ者など様々である。こんな部でも、春には全道学生将棋大会では準優勝をしている。

将棋の好きな方は、是非(部員より強い人がいるとメンツが立たないので)将棋部に入学してください。

(文責 佐藤 利彰)

部員数	経 費	活 動
15	会費なし 遠征費自己負担	5/3~5/5 全道学生将棋春季大会2位 10月 全道学生将棋秋季大会6位 全道学生将棋連盟加入



ロ ッ ク 研 究 会

この大学で唯一、ムズカシイことぬきに本当にたのしめるのが、我々ROCK研です。大学生らしい自由な生活をenjoyできるのは、我がクラブだけです。新入生のみならず、いままでしたくてもできなかったいろいろなたのしいことを我がクラブでやりませんか。昨年、練習場が

完成し、機材も充実しつつあり、これから増々活動していく予定です。そのためには、きみたちの若い方が必要です。音楽の好きな人、めだちたい人、あそびたい人、一度練習場に来てください。

(責任者 山本 修司)

部員数	経 費	活 動
13	会費 月額 1,000円 その他適時徴収	6月スキー部主催ダンスパーティ出演 10月自主コンサート 観客動員200名 12月「もあ」主催クリスマスコンサート出演



C P U

「CPU」とは、大型電算機からマイコンまで、すべての電子計算機の大脳であるCentral Processing Unitのことである。ソフトウェア面での活動を主としている。活動は主として、実験実習機器センターでの電算機によって個人的になされる。現時点では、X-Yプロッターにより、「三次元図形をいかに立体的に表すか」ということが主になっている。言語はFORTRANである。

一部構成員は、主にBASICにより、ソフトウェアの開発をしている者もあり、広義のハードウェアを手がける者もいて、活動範囲は比較的多岐にわたる。

多忙な者が多いため、短い時間を根気よく使うことにより、殆んどすべての医学の方面に利用されてきているコンピューターを、違和感なしに扱えるようになることを目標にしている。

部員が少ないため、より多くの参加を希望するものである。

(責任者 坂本 淳)

部員数	経 費	活 動
6	経済的負担 一切なし	

“悩 む” 会

「色不異空空不異色色即是空空即是色受想行識亦復如」だからといって、何をしたらって罪にならない訳でない、かといって、何もしなけりゃいい訳でもない。学生だから、学生として、学生らしくどうこうするなんて取るに

足らない事や、友人、知人、親類縁者、親兄弟に気を使うふりをして腹の底を探ったり、いっちょまえに政治のわかった顔してみたり、それでいいならそれでもいい。本人の自覚の問題ですから。「悩む会」？年令、性別、宗教、収入、容姿、学力等不問。夢の能登半島ツアーに、君の青春をぶつけてみないか?!ヤスオチャーン……

(責任者 渡辺 泰男)

部員数	経 費	活 動
13	会費 月額 1,000円	6月映画「太陽は泣かない」上映 大入満員 7月長楽寺ツアー

課外活動短信

第3学年学生増田信子さん

昭和池田記念財団実施の第1回学生論文募集において
本企画最高の賞である昭和池田賞を受賞



窓 外



天 羽 一 夫

刺身にご注意

西洋の伝説ドラキュラほど大層なことではないが、動物が人間を刺して血液や養分を吸収し、毒素や寄生虫を移入すると、ときにはドラキュラ以上の被害をもたらすこともある。それは、蚊や蜂でも不愉快だし、女王蜂や熊ん蜂になると政治生命どころか、一命を落すことにもなりかねない。

遙かな昔、生物が陸に這い上ったとき、一緒に上陸した寄生虫は、ホストが進化しても原始の形のままで相も変わらず諸々の動物に寄生している。昔、田舎町の小学生の頃は、定期的に海人草の煎じ汁を飲まされたものだが、最近では、化学肥料や駆虫剤の発達と生活圏の都市化の故かその必要性も無くなったようだが、その反面、いままでもあまり関心を持たなかった寄生虫による病気が見直されてきた。昭和40年6月、普通寺市の国立病院外科のY君が、胃の好酸性肉芽腫の組織から小線虫を見つけどうやらアニサキスの幼虫移行症らしいと考え、動物実験もやっていた。この病気は、瀬戸内海の背中の青い魚の鱈や鯖を生で食べたのが原因らしいと判って以来、それらの刺身は食べなかった。しかし、症例も少ないので大して興味も持たなかったが、その後、学会誌で北海道でのアニサキスの内視鏡による摘出や胃に刺さった虫体のX線像小腸イレウスや腹腔内膿瘍などを読むたびに南と北では大分事情も違うなど思っていたところ、縁あって旭川に住むようになり、はじめ寒流系の魚の味に馴染めなかったのが、数年もすると味の良い白身の魚の刺身も食べ

じめたのが運の盡であった。私事で誠に恐縮であるが、昨年11月中旬、雄武沖オホーツク海産のオヒョウの寿司を二つ三つ夕食につまんだところ、3時間後に軽い嘔気と少量の胃液逆流があったので、“これは刺された”と思ったものの夜も更けたことだし明日にしようと思い、ウイスキーをストレートで飲みうまくゆけば虫も麻痺してくれるだろうと思って休んだが更深3時、つまり9時間目に胃の痛みで目が覚めて間断なく襲う激痛で遂に眠れず、朝を待ち兼ねて内視鏡でみると、胃体大弯に先端を胃壁に突っこみ一回とぐるを巻いた小線虫がいたので早速摘出したところ、胃痛は忽ち消失した。あとでテラノーバA型と判った虫体は、生理食塩水の中で夕方固定されるまで活発に動き、生命力の強さには驚かされた。

その後調べた文献や経験談によると、旭川では魚の冷凍機の普及した昭和42年頃から症例が増加しはじめた由で、鮮度の良い魚が食べられる反面、危険も増したようである。この予防には、オランダではニシンの-20℃、24時間冷凍が義務づけられているそうだが、これでもまだ不十分だとの説もあるほどで決めてになるものは無く、要は、寒流系の白身の刺身を食べないということになるが、旭川の症例では口唇に吸いつかれた粹なものには始まり、食道末端、胃、小腸、腹腔内とさまざまなものが報告され、その後遺症も小生のでは、以来胃の調子悪く、今年になっても2月の内視鏡では刺入部に小潰瘍があり、困りに線状発赤が多数あって、いまだに胃痛と食欲不振に悩まされて、食餌制限と胃薬のお世話になっている次第である。北海の美味を味わうために水産業界、保健所、学会などで抜本的な対策を考慮戴くとともに、それまでは次に掲げる魚の刺身は、よく注意して食べるのが賢明であろう。「ヒラメ、アカガレイ、オヒョウ、スルメイカ、スケトウダラ、マダラ、アイナメ、マアジ、ゴマサバ、ヒラサバ、サケ、サクラマス、カラフトマス、ベニマス、ニシン、ホッケ、メスケ、ホウボウ、ハタハタ、タチウオ、イワシ、キュウリウオ、ホンアンコウ等々」

(放射線医学講座 教授)